

介護サービス科における「KOMI理論」と「KOMIチャートシステム」の導入とその効果について

—ホームヘルパーの質的向上を可能にする訓練教材と指導方法についての報告—

兵庫県立介護福祉高等技術専門学院 魚崎 須美

1. はじめに

兵庫県では、昭和39年1月、「兵庫県立神戸家事サービス職業補導所」を設置し、昭和41年4月からホームヘルパー養成訓練を開始した。その後、社会の変化とともに、常に県民のニーズに応えられる能力を備えた介護職の養成を目指して変遷を繰り返し、平成2年4月、現在の介護サービス科（職業転換課程）が設置された。現在は定員50名、6か月間の訓練を実施している。

平成12年4月、介護保険法が施行されてからは、福祉サービスは措置制度から契約の時代へと変わり、ホームヘルパーの需要は急増し、また、業務においても従来からの家事援助に加えて、ケアプラン作成やケアマネジメントができる能力が必要とされるようになってきた。

そのような社会の変化に伴い、ホームヘルパー養成カリキュラムにおいても、短期間で効果的な訓練を行うための質の高い教材と、指導技術の高度化が求められている。

そこで、当学院介護サービス科においては、しっかりとした理論に基づいた介護の展開方法を身につけることもホームヘルパーにとって必要であるという考えから、その展開方法の1つである「KOMI理論」と「KOMIチャートシステム」を訓練カリキュラムに導入し、その効果を上げている。

2. 「KOMI理論」と「KOMIチャートシステム」

「KOMI理論」とは、金井一薫（日本社会福祉事業大学教授）によって提唱されているKanai Original Modern Instrument のことで、これは、金井氏が長年研究してきたナイチンゲール看護の原理に沿って、看護・介護の実践の本質を解明すべくつくりあげられた理論である。KOMI理論は、①目的論、②対象論、③方法論、④疾病論、⑤教育論、⑥管理論、⑦研究論の7本の柱で構成されており、そこには、看護・介護の本質と方向性がはっきりと示されている。

特に、以下に示す「ケアの5つのものさし」は、介護がめざす援助の方向軸を示しており、これから介護の仕事に従事しようとする受講生にとっても、介護の基本的な考え方として非常に重要となってくる。

「ケアの5つのものさし」

- ① 生命の維持過程（回復過程）を促進する援助
- ② 生命体に害を与えない援助
- ③ 生命力の消耗を最小にする援助
- ④ 生命力の幅を広げる援助
- ⑤ もてる力、健康な力を活用し高める援助

「KOMIチャートシステム」とは、KOMI理論に導かれて作成された看護・介護過程展開のための記録システムである。フェイスシート（初期情報用紙）、生命過程および生活過程判定用紙、ケア計画作成用紙、サマリー（要約）用紙の4部門（13枚）の記録

様式から構成され、システム全体としては以下の特長を備えている。

- ① 記録用紙全体が一貫した理念で貫かれている
- ② 把握した情報を、一目で全体像がわかるように処理できる
- ③ 完成した記録全体を読むことで対象者の概要や生活の全体像を短時間で理解することが可能である
- ④ 円形図形や絵をふんだんに使うことで、見る人の視覚に訴える
- ⑤ できるかぎり文字記載を避け、チェック方式を取り入れてある
- ⑥ 記録することが楽しいと感じるように工夫されている
- ⑦ 訓練すれば、記録に要する時間が短くてすむ
- ⑧ 記録用紙1枚1枚が「テーマ」をもって語りかけてくる
- ⑨ どんな職種の援助者でも活用可能である
- ⑩ 各機関とおしの連携と調整、各職種間の連携およびチーム内での意思統一に不可欠の用紙である
- ⑪ 患者・利用者本人またはその家族自身も、記録することが可能である
- ⑫ 情報開示というテーマに十分適応できる
- ⑬ 臨床研究の質的向上に資する
- ⑭ 看護・介護学生の実習教育を支援するシステムである
- ⑮ KOMIチャートシステムとコンピュータソフトが完璧に連動している

3. 「KOMI理論」と「KOMIチャートシステム」を用いた訓練指導展開

ホームヘルパー養成研修では、厚生労働省が定めた「訪問介護員養成研修テキスト作成指針」に合致した内容が確保されたテキスト（以下、標準テキストという）により行われることとされており、当学院においてもこの標準テキストを使用しているが、理論に基づいた介護の展開方法の補完として

「KOMIチャートシステム2001」についても必要テキストとして採用している。

「KOMI理論」と「KOMIチャートシステム」を用いた訓練指導展開は表1に示すとおり、2級課程では、「介護概論」（講義）と「介護事例検討」（演習）、そして「介護実習」では各自が1事例について指導者と共にKOMIチャートシステムを用いて基本的なケアの方針を立案し、提出することを課題としている。

1級課程では、2級課程の「介護実習」で立案した各自の事例を持ち寄り、数名のグループごとに事例のアセスメントから基本的なケアの方針、ケア計画についての意見交換を行い、さらに、具体的な介護サービス計画までを立案している。この際、コンピュータの活用方法も同時に習得できるように、

表1 KOMI理論とKOMIチャートシステムを活用した学習展開（13年度）

訓練時期	講義
1週目頃	2級課程 「介護概論」（講義：8h） ・目的論 ・対象論 ・ビデオ「呆けなんか恐くない」
6週目頃	「介護事例検討」（演習：8h） ・方法論 ・事例（昭和緑子）検討 ・KOMIチャートシステム記入方法
8週目頃	「介護実習」他（実習：92h） ・1事例提出 （初期情報・生命過程・生活過程）
14週目頃	1級課程 「困難事例等対応技術」（演習：22h） ・ケア・デザイナーの体験 ・グループでの事例検討 *介護実習で提出した事例について介護計画を立案する
18週目頃	「指導技術と介護技術の向上」 （学内実習：54h） ・ホームヘルプ計画書立案 ・訪問介護場面のロールプレイ

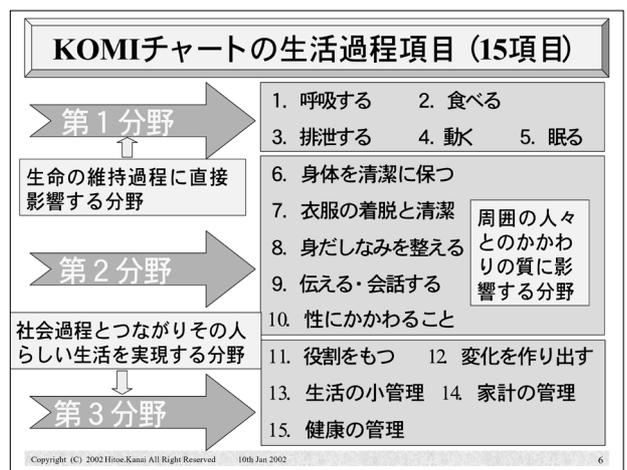
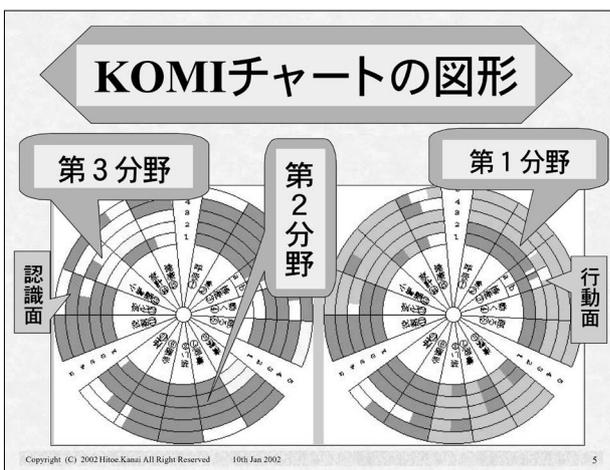
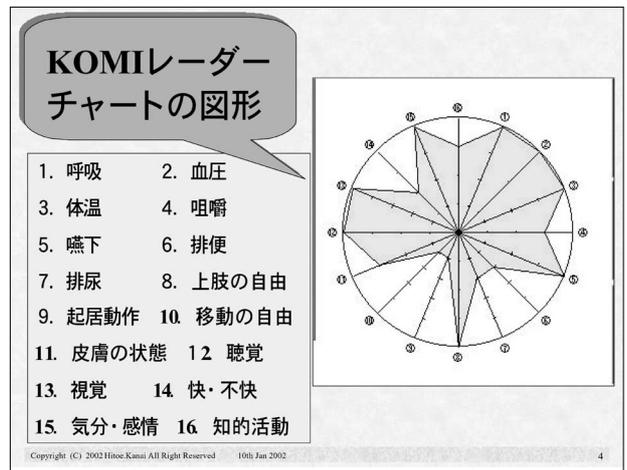
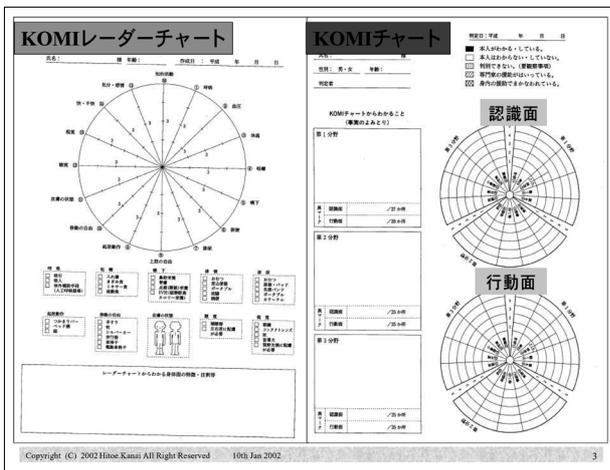
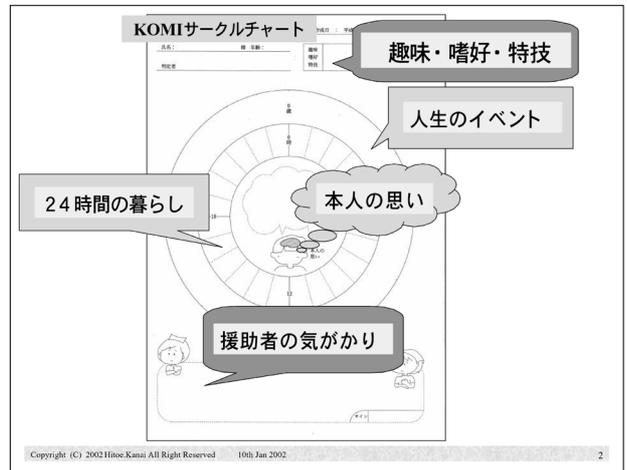
KOMIチャートシステムと連動しているP・Cソフト「ケア・デザイナー」(パスカリア社)を用いたコンピュータ実習も並行して実施している。

その後、同じ事例を用いて「指導技術と介護技術の向上」の学内実習で、各自が2時間程度の「滞在型ホームヘルプ計画書」を作成し、役割を交代しながら訪問介護場面をロールプレイで実施している。

4. 「KOMIチャートシステム」の一部紹介

以下に、KOMIチャートシステムの記録用紙のなかから一部を紹介する。(出典：「KOMI理論とKOMIチャートシステムプレゼンテーション」)

これらの特徴は前述したとおりであるが、対象者の全体像が一目瞭然であると同時に、この記録用紙



を記入することによって援助者自身の観察の視点が明らかとなり、専門職としての観察力を養えるという効果も備えている。

5. 訓練結果について ～受講生へのアンケートから～

「KOMI理論」と「KOMIチャートシステム」は、平成12年度後期受講生から導入を始めたが、今回、平成13年度後期受講生45名に対して、KOMIチャートシステムを使ってみた感想について無記名アンケートを実施した結果を以下に記す。

表2 受講生の内訳

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	合計(%)
女性	15	8	10	2	35(77.8)
男性	4	5	1	0	10(22.2)
計	19	13	11	2	45(100.0)

表3 KOMIチャートシステムを使ってみた感想

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	合計(%)
良かった	15	12	8	1	36(80.0)
良くなかった	0	0	0	0	0(0.0)
どちらとも言えない	4	1	3	1	9(20.0)
計	19	13	11	2	45(100.0)

「良かった」理由としてはつぎのような記載があった。

- ・いろいろな人が同じ視点で考えられるということは、サービスの質をそろえた介護ができるので良いと思う。
- ・利用者の状況が一目瞭然でわかる。
- ・情報の共有がしやすい。

- ・KOMIチャートを作成することで、一度もお会いしたことのない利用者さんのことがよくわかった。
- ・グラフ等で客観的に判断することができた。
- ・一目瞭然で利用者には何が欠けているか、どういうケアが必要かという目安がわかる。
- ・いろんな角度から見つめることによって、考えが偏らず、広がる。
- ・利用者の何を聞いたらよいか分かりやすかった。
- ・だれがみてもよくわかり、その方の残存能力を生かせる計画が立てやすかった。
- ・私の父の事例だったのだが、これからの父への対応の仕方、方向性がわかってきたように思った。
- ・簡潔なデータがわかりやすい。
- ・何を軸に援助を考えればよいか分かる。
- ・文章で長々と書かれてあると読むのが面倒になるが、一目でわかるのでよかった。
- ・特養でケース会議にこのシステムを使ったら、利用者のことがよく理解できた。
- ・自分で記入していくことで、記入しながら利用者の問題点や人物像、生活がはっきりしてくる。
- ・身体のこと、家族のことなど、今まで気づかなかった点に気づくことができた。
- ・詳しい分析力が身につく。
- ・情報の共有ができる。
- ・利用者の残存能力がわかりやすい。
- ・利用者の姿がイメージしやすい。

「良くなかった」という感想はなかったが、「どちらとも言えない」のなかにつぎのような記載があった。

- ・慣れるまでに少し時間がかかる。
- ・作成する時間的余裕があれば良いものだと思う。
- ・情報不足のため詳しく作成できなかった。
- ・(KOMIチャート)を黒く塗るのが難しい。
- ・書き込むのに慣れるまで少し時間がかかる。

表4 今後もKOMIチャートシステムを使いたいと思うか

	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	合計(%)
使いたいと思う	14	9	8	1	32(71.1)
使いたいと思わない	0	1	0	0	1(2.2)
どちらとも言えない	5	3	3	1	12(26.7)
計	19	13	11	2	45(100.0)

この質問に関して、「使いたいと思わない」の理由、および「どちらとも言えない」の理由は記載されていなかったが、「KOMIチャートシステムを使ってみた感想」の自由記載欄と同一者の回答がほと

んどであり、「慣れるまでに時間がかかる」と感じていることから今後の使用にやや躊躇していることが推測される。

また、演習を通してコンピュータの使用による記入の簡易化も体験はしているが、なかにはコンピュータの操作そのものが不慣れな者もあり、この結果に影響しているとも考えられる。

6. コンピュータを使ったケアプラン作成演習

P・Cソフト「ケア・デザイナー」(パスカリア社)を用いたケアプラン作成演習は、コンピュータの操作経験が全く初めての者を含めて25名ずつ、2クラスに分かれて実施している。



写真1 ケア・デザイナー実習風景



写真3 KOMIチャート入力風景



写真2 A用紙入力風景



写真4 グラントアセスメント入力風景

1人に1台のコンピュータを使用し、訓練時間は8時間を当てている。操作方法を簡単に説明し、後は各自が用意した事例を自由に入力している。

7. まとめ

ホームヘルパーの業務は、大きくは家事援助と身体介護に分けられるが、すべての業務が「利用者の生活過程を整えること」そのものにつながっている。それは、本来、しっかりとした根拠に基づいて行われるべき専門性の高い業務である。しかし、急増する利用者ニーズに対応するためには、専門性を追求することよりも、短期間で、より多くのホームヘルパーを養成することが急務とされている。

そのような現状を踏まえ、短期間で、しかも介護職としての専門性をも習得するためには、かなり質の高い教材と、指導方法の工夫が必要であるといえる。

今回、介護サービス科：ホームヘルパー養成研修において「KOMI理論」と「KOMIチャートシステム」を導入したことにより、以下の点で効果が確認できた。

- ① 受講生は、看護・介護の基本となる利用者の「生命力」に目を向け、利用者の「もてる力、残された力、健康な力」に着目した援助のあり方に気づくことができた。
- ② 受講生の発想や発言は具体的で、全体として非常に活気のある演習が展開でき、受講生の受講意欲の向上にも効果が見られた。
- ③ 受講生は、「ケアの5つのものさし」を軸として、具体的なケアプランの立案方法を理解できた。
- ④ 受講生はホームヘルパーの仕事に対する意義とその専門性を理解し、就職へ向けての自信と希望を実感できた。

今後、介護保険の普及とともに、ホームヘルパーの需要も増えていくことが予想され、在宅介護を支える重要な役割がホームヘルパーに期待されているところである。

ホームヘルパーが、その仕事の意義を理解し、期待に応える仕事を続けるためには、基本となる理念を踏まえた技術を身につけることが必要である。その意味において、ホームヘルパー養成研修における「KOMI理論」と「KOMIチャートシステム」の導入は、「介護とは何か」を明確にし、ホームヘルパーのすべき仕事は何なのかを具体的に示してくれた。そして何より、これからホームヘルパーとして働こうとする受講生たちに介護の楽しさを動機づけ、自信と希望をもって訓練を終えることができたことは、実践家を養成する研修として非常に大きな効果があったといえる。

〈参考文献〉

- 1) 金井一薫：『KOMIチャートシステム・2001』、現代社、2001.
- 2) 金井一薫：『ナイチンゲール看護論・入門』、現代社、1993.
- 3) 金井一薫：『ケアの原形論』、現代社、1998.
- 4) フロレンス・ナイチンゲール著、湯槇ます・薄井坦子 他訳：『看護覚え書』（第6版）、現代社、2000.
- 5) ケアプラン作成ソフト「ケア・デザイナー」、(株)パスカリア.

〈引用文献〉

- 6) 金井一薫：『KOMI理論とKOMIチャートシステムプレゼンテーション』（CD-ROM）、KOMI理論研究会.

